

東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

幼 兒 の 教 育

主 幹
倉 橋 惣 三

十二月號

茂木由子先生作歌
 萩原英一先生作曲
 土川五郎先生振付

四六倍判箱入装幀頗る美本
 正價金二圓五十錢 送料十七錢

律動をさなごのうた

遊戯

目次

お 日 様
 ビ ア ク
 カ ケ ク
 カ ケ ク
 風 ケ ツ コ
 コ ケ ツ コ

付奏件ノアビ

茂木先生の歌に萩原先生の曲、遊戯界の第一人者たる土川先生の振付と、三先生の御盡力で今迄に無い理想的遊戯教本が出来ました、各々多數の寫眞版を入れて表情の變化を理解し易く巧みに現してあります。

發 兌

東京上野公園寛永寺坂下 上根岸八十八番
 振替東京四六一一番 電下三〇四七番

教 文 書 院

日本幼稚園協會編輯幼兒教育

會長

東京女子高等師範學校校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

倉橋惣三

贊助員 (五十音順)

東京女子高師教授

岩谷秀雄

東洋大學教授

棚橋源太郎

東京帝大醫科講師

乙竹岩雄

東京女子師範學校校長

田子一民

東京高師教授

醫博 太田孝之

東京女子高師囑托

高島平三郎

慶應大學教授

醫博 唐澤光德

帝國教育會理事

龍山義亮

東洋幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

土川五郎

早蕨幼稚園長

久留島武彦

京都帝大教授

野口援太郎

帝國教育會會長

文博 澤柳政太郎

東京女子高師教授

乘杉嘉壽

東京市學務課長

佐々木吉三郎

東京女子高師教授

堀弘田長

東京高師附屬小學校主事

佐々木秀一

東京帝大教授

堀七藏

東京女子高師教授

文博 下田次郎

東京帝大教授

松村武雄

東京女子高師教授

醫學士 菅原教造

奈良女子高師校長

松本亦太郎

醫學士 富士川游

醫學士 奈良女高師附屬幼稚園主事

榎山榮次

東京市視學長

藤井利譽

奈良女高師附屬幼稚園主事

三田谷啓

東京女子高師講師

藤五代策

東京高等學校長

森川正雄

大阪市教育部長

福士末之助

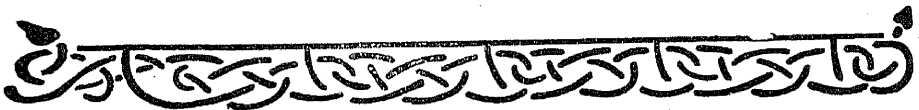
東京帝大教授

湯原元一

文博 谷本富

日本女子大學學監

安井哲子

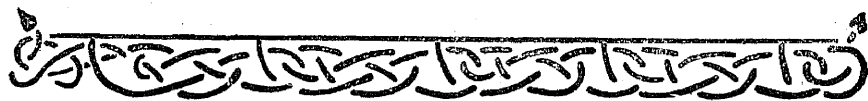




第 八 號 幼 兒 教 育 第 二 十 四 卷

目 次

大正十三年を送る……………	泰西名家幼稚園觀……………	小 話……………	幼稚園細目……………	幼稚園は初年教育に對して如何に準備 するか……………
K	記者 譯……………	み ち ば……………	馬場 定 一……………	マリー・ジュー・ウエスト……………
H	三六	三九	二九	二五



日本體育會體操學校講師
大阪府金蘭女學校講師
童謡新舞踊研究會主幹

久保富次郎先生著

菊判總クロース製箱入美本
舶來上質アイトヘイバ
圖解寫眞六十餘圖挿入

各大家 合作 童謡 新遊 戲

正價金二圓十五錢
書留送料金十錢

目 次

みづ汽車
夏の鶯
お月さん
とほせんぼ
虹の橋
お山の將
月夜の鐘
鈴星
お守様

雜誌明日の教育掲載
三澤木露風朝歌
西原の十會
北原白長
野原龍太郎
池田景雨
西條八景
本居八景
西條八景
四條八景
黒山八景
横山八景
黒澤八景
土澤八景

付 奏 伴 ノ ア ビ

我國古來の舞踊と新來のダンスの長所を取入れ兒童に適應する様に創案した表情遊戯で學校教材として最も理想的のもの、殊に上品に優雅に謡の示す通り表現し無意味な手振、餘計な表情を入れず、曲の表現に對しては最も注意せる遊戯として無比の教材書であります。

發 兌

東京上野公園寛永寺坂下 上根岸八八
振替東京四六一一一番電下三〇四七番

教 文 書 院

東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

幼 兒 の 教 育

主 幹
倉 橋 惣 三



第 八 號

1924

第 二 十 四 卷

幼稚園は初年教育に對して如何に準備するか

マリー、ジー、ウエイト

幼稚園に上る頃から、學校教育の最上級を出るまでの間、教育には途切れとか斷絶とかは起てはならない、と言ふのが教師間に一致した考である。

この學校生活に生ずる或る斷絶——殊に幼稚園と一年級の間、小學校とハイスクールの間、ハイスクールから大學への間を生ずる——を根絶する唯一の道は、學級の段階的連續と、それ以前の段階の完成を必要とする事である。幼稚園と初年級は屢々反對の目的に働いてゐるといふ非難をうけてゐる。しかし之等の相違は教育過程に於て幼稚園と小學校の理想と實際、即ち其の眞の教育の意義や、立場に就ての理解が進むに従て速かに消滅するのである。

幼稚園には其仕事の一定の部分を自然に形造つてゐる、多くの技巧習慣があるけれど、それは幼児の心をまづ第一にとらへるものではない。尤も之等の習慣が偶然仕事の中には入て來る場合には、幼児はそれを用ふように獎勵されなければならぬ。たとへば建物の内外には幼児が知らなければならぬ。種々のしるし——校長室、女兒、男兒、入口、出口、十二室、車止、大通、消防署、合衆國郵便局等——がある。技巧の方面には多くの注意をひく事はないとしても、初歩の仕事の他の二方面は兒童の意識的注意をひき、その基礎をなす兒童の知識を増蓄し、又それについての興味を發達せしむる爲に、十分の機會を與へるように計られる。

讀方

かりに讀方といふものが、表はされたものを理解する爲にシムボルを述べる可能性といふ意味であるとしたならば、極く幼ない小兒も讀めるといふ事が言へる。しかしかような讀み方は印刷された紙上の文字を讀むように學ぶ、ほんの初歩である。兒童は畫と身振を解する事を早くから學ぶ、即ち彼等は彼等が見たことの意味を話すように學ぶ。「目からは入る事實を認識する能力は思考能力を造る」とデウエー先生は言はれた。又「兒童は訓練せずとも自然に六七歳の頃になると繪畫に關して此の可能力を發展する」とピネー氏は言てゐる。それで彼は七歳の知能検査にそれを用ひてゐる。幼稚園に於て兒童は自分の畫と名畫との兩者を解釋する事が出来る。他のシムボルを解釋するには劇的の仕事と表情遊戯がある。身振は常に通信の方法であつて、現代でもなほ身振以外の仕方では他部落と通信の出来ない部落がある。そしてこの通信の二方法は、幼稚園に於ける幼兒の生活のごく自然なものである。

事の成行に就ての感情の發展

讀み方は、知的本意のものと興味本意のものに分けられるが、小さい兒童にとつては後者はお話の形式になる。幼稚園に於てお話の愛好心が養成され、そして幼兒日々の經驗の部分を形造する。多くのお話を聞けばかりでなく、一つ／＼が幾度も話されるし、又其時の場合や気分によつて、それに適した新しいものが發明もされる。かような方法で兒童は豊富な語集を收得し、又出來事の成行に對する情緒をも養ふ。幼稚園ではお話に依て觀念と語集の連續といふ事に力を入れるばかりでなく、又會話に依て意識的に語集を發展せしめる。おそらく幼稚園の會話は小學校の教師から最も誤解される處の幼稚園の仕事であらう。會話に依ると言ふ事は、單に社交的な話の爲のみではなく、それもみとめられるのであるが。

幼稚園は初年教育に對して如何に準備するか

ある題目に對して、自分の意見他人の意見を述べ合ひ、お互に影響を受け合ふ、眞に會話それ自身の爲の會話である。又幼兒は會話に依て、他兒又は教師から得た斷片的な知識と智識とをつなぎ合せ、更に新しい廣い考への組み立てをする。これは兒童が字に就て、彼等の觀念が正しいかどうかを見得る一つの方法である。

英語の正しい用法に適した音を解するといふ事も亦、會話に於ける最も大切な事である。そして聲音の遊や話し方はゆるがせにしてはならない。幼稚園には之等の爲に計畫された多くのゲームがある。意識的に用ひられはしないが、之等の遊びは、讀方の技巧の殆ど直接練習として考へられてゐる。

幼稚園に於て多様な方法で用ひられて居り、そして讀方に必要な他の技巧は、一目で出来る丈見るといふ事である。心理學者や生理學者は、吾々を見る能力を増加させる事は出来ないといふが、彼等はまた、我々の持つてゐる能力を全部使ふ人は恐らく一人もあるまいとも言つて居る。事物の群團といふ事と認識といふ事に就て、或結果を増す爲に注意のゲームといふのが幼稚園にある。これは初年級で強められ、更に眼界を廣め、又讀方の際、目の使ひ方が敏捷になる爲に用ひられる。

數 學

數に就ての仕事は、幼稚園の他の諸活動に比して、著しく學校の爲の基礎として準備されてゐる様に見える。極く小さい兒童でも數の組合の用法を理解する必要がある。三歳の子が、「トムとボビーと私のにするのだからお菓子をつつ」と二つ頂戴」と言つたのは、表現すべき言葉は知らなかつたけれど、其の子は二の三倍の價值を知てゐるのである。

數の關係は材料を用ふる處では、どこでも容易に實例を示す事が出来る。數の課業の二つの至要な要素は、事物をグループにして見る事と、後へも前へも續けて數へ得る事とである。幼稚園の幼兒は事物をグループにして見るのに多くの機

會を持つてゐる。幼児は籠、首飾、タホル、ナブキンの模様を作り、又お祭の衣裳を飾り又種子や球根をグループにしたり、列にしたりして花壇に植える。子供達が、あるゲームをしてゐる時に、二、三、五、八、人のグループの子供は、其の特種なゲームに必要であり、又指揮者は屢々「さあ次の三人の番です」と言たりする。兒童の多くの仕事の中で、數へるといふは必要な事である。彼等はいくつの椅子、何枚の紙、何個の鉢、或は他の必要な材料が要るかを知らなければならぬ。やさしい數へ方は二、三のグループでリズム的に進展する又或時は四又は五でも出来る。これは玉や鎖やテープル飾りや木片のかきねや、其他多くの模様に依て實例を示される。

數の基礎學習

加算と乗算は、連続した數へ方の縮んだ型である。幼稚園の子供は、之等の數の連續に就て基礎的な事實を學ぶ。グループを成してゐる事物、それは乗法の基礎である。かのリズム的な數へ方の實例の如き、かような種類の多くの經驗を兒童が持つてゐると言ふ事は、吾々のよく知る事である。兒童は、二或は三のグループの爲に、ある事物がいくつ必要かを見る爲にかぞへるといふ事もある。彼等は又極く簡單な方法での割算も知る必要がある。二人で一つの糊皿を使ふ時には、皆でいくつ要るか、又半數の兒童にくばるにはいくついるか等といふ事は、日常に關係ある實地問題である。數の仕事は課業としては見なされないが、其場合のゲームとか問題の附隨物として取扱はれる。然しそれは決して偶然に生じた事ではない。賢い教師は他の場合と同様、智識の發達に依て起るあらゆる機會を用ひ、又これが他の仕事と隨伴的に生ずる様に計る。それ故幼児は、他の仕事を實行しながら數へる事に依て、簡單な數に就て經驗し、遂には一つづつ加へたり減じたりする様な、ごく簡單な數の連續に就いて、ある知識を得るに至る。

書 方

人間は從來のシムボルで書く様になつた以前に、他人へ意志を表したといふ記録を持つてゐる。そしてそれに依て言語のわからない人と通信をする事が出来たのであるが、兒童に就ても亦之と同様で、考を表すのに在來の記號を用ふる様になる前に、他のシムボルで表はす。其の最も初は泣くといふ事で其以外には身振がある。赤ん坊は、食物の足りた時に頭をふり向ける。暫くするとシヤベルを欲する意を表はす爲に、空で手をうごかす。かくして幼稚園へ上るまでには、幼兒は多くの事を學んでゐるが、然し彼等はまだ身振の方が言語よりも用ひられる状態にある。彼等は多くの考へや情緒を動作であらはさなければならぬ。かくて、お話、會話、劇遊、身振、狂言は殆ど書く事畫く事と同じ表現形式のように、通信の前提的形式として大切なものである。

兒童は自分の考を傳へるのに、屢々畫く事をする。子猫と人との話をする時に、人を表はす大きい圓と猫を表はす小さい圓の位置を換へる事に依て話をする子供は、目のシムボルを使ふ事に於て、意志の發表になれてゐるのである。觀念發表は幼稚園の畫方の最上の理由である。ある技巧は、之等の考の正しい發表にとつて必要である。紙面の底邊を横ぎる線は平く見え、上下の線は地面を暗示し、同時に斜線は雨を表はす。子供が最もよく考を表はす線を作るのに技巧を要する時には、兒童をして自由に之等の線を畫かせれば、自づとよい工夫が生み出される。モンテツソリーは此の最初の工夫の一として形板を用ふ。そこでは活動は鉛筆の動く場所に依て限られる。幼稚園の兒童は形板に制限されずと同様の活動をする。

畫の要素の多種の形が同じ様にして作られる。之等の練習は書くのと同じ動作を含む。そしてこの二つの場合に於て方法或は内容が一致してゐる時には習慣を生ぜしめ得ると、心理學者は言つてゐる。故に幼稚園の自由畫に使はれた技巧は

あたかも一年級の書方の技巧の基礎を形造るかの様に見える。

地 理

地理學習は、自然及び兒童各自の環境の地理から始められなければならない、とはすべての地理科の教師の一致する處である。此の種の地理學習は、幼稚園に於て非常に力強く行はれてゐる。勿論我々は兒童が地圖を讀んだり、日や星や、コムパスで方向を指したりする事を豫期してはゐないが、然し我々は彼等が各自、或は團體としての地理的經驗の組立てに依て、彼等の興味をひろめ且つ或る物質的事實の知識を増す事を見出す。例をあぐれば、方向といふ題目の下に、兒童の必要に應じて或事實が學ばれ、又次の如き提案に依てそれが組織立てられて行くといふ事を見出す。即ち

「お家から學校まで、どうして來ましたか？」

「どうしたら百貨店へ行けますか？」

「お母さんの郵便を入れるのには何處のポストに行きますか？」

「お家から學校までは、どんなに遠いのですか？」

「歩くところまで、お父さんと一處に來ますか？」

「公園へ行く時には、お祖母さんの所へ行くのと同じ道を行きますか？」等。

兒童が理解し得る他の事實は、雨が軒から落ちる状態、學校の芝生から道路の方へ強雨が澤山の土を運ぶこと。多くの食物、衣類や家屋の材料は他所から持つて來ること。そして之等の物は我々が近所から直ぐ買ふ時とは全然違つた形をしてゐる事。又之等を我々に送つてよこす人々は交換として我々の持つてゐる他の物を要すること。之等の物は汽車、自動車、ボート、飛行機で運ばれる事等である。

幼稚園は初年教育に對して如何に準備するか

季節の變化は、小さい兒童にとつては非常に意味の深いものであつて又幼稚園要目の基礎の大部分を形成して居るのである。燃料が、どこから來て、どういふ具合に産出されるかといふ事は、兒童にとつて、常に興味ある事である。

冬中何處に鳥が住んでゐるか、何故母が秋には食物を蓄へるか、何處から暖い着物の材料が來るか、窓に飾る花をどうして造るか、我々のパンを造る爲にパン屋は、何處での澤山の粉を得て來るか、等は幼兒の心に、たえず起る處の問題であつて、會話やお話、討論、構成、活動又幼稚園の自然の仕事に依て部分的に答へられつゝある處の問題である。

地理的知識の増進すると共に、幼稚園の教師は、我々の持つてゐない事物を送ってくれる人々が、如何なる生活をしてゐるか、そして我々に送つたその交換として何をしたらいいかと言ふ事に就て、自然的に興味を養ふようにする。

他の地理的事物の中に兒童は良い道路の價值といふものを學ぶ。學校へ通ふのに土の上を歩くより。ペープした道を行く事は大層なことである。

然し地理に關して兒童の得るすべての物の中で、最も大切な事は、我々に接近した人々や事物と同様に未知の事物に對しての驚異の感じである。

初年級と幼稚園とを問はず、賢い教師は之を出來る丈利用して、これらの珍らしい、不思議な事物に就て、もつと發見をする様に、兒童の工案を活動的に發展せしむ。

結 論

幼稚園の幼兒は、基礎的知識とそれに就ての興味を刺戟する經驗を必要とするが、彼等によつて初年級の準備といふものは前者ほど必要ではない。

故に幼稚園では、多種多様な經驗を與へる事に依り又それを組立て、彼等の根本的興味と觀念とを結び付ける様に、補ける事に依て、初等學校の學課教授の爲に必要な多くの準備的材料を供給するのである。

幼稚園細目

馬場定

二二

幼稚園に於けるお囃の用

一般に時と處とを選ばず、苟くも子供を喜ばすに足るものであれば其れ自身價値の要素を含んで居るものであつて多少でも個人の發達の上に有效なものであるとはフレイベル氏の主義として世に承認せられたる處である。故にフレイベルは、ボールとか人形等の如く各時代に於て共通的に子供を喜ばした所の玩具は明かに教育的價値を持つて居るものと信じて居た。各時代の間の秘密の領域を潜つて傳つて來た所の傳統的の遊戯の如きも同じ意味に於て本態の價値を有し、従つて生命を持つて來たのである。お囃は其自身に善の要素を含めると共に是等玩具、遊戯と同様にして子供等の教育に貢獻して來たものに屬するのであるから、幼稚園の仕事に於てお囃が重要な地位を占めて居る事に

就いては今更驚くに足らぬわけである。

お囃の作用

色々な形のお囃は、種族の發達に關しては決して無意味のものでは無かつたのである。古代の巡回歌人、Bardsは尊敬すべき話し手であつたものだし、昔の詩は今日吾々の古典である。お囃を好む事は子供に限つたわけでは無いので、擴大せられ、工夫せられたる形のお囃は、今日其の魔術の許に無数の青年や大人を引きつけて居るでは無いか。「人の教育」によりて見るにフレイベルは子供がお囃を好む理由を次の如くに考へて居る。お囃は其の色々な場合に於て、子供等の爲に子供自身の小さい生活を表はすものであつて、其の生活たるや子供に丈は臆ながら認められるものであるが、自分の語彙が限られて居る爲に之を發表する

事が出来ない事と自分の未だ充分に統御せられて居ない生活を其以上のものとして發表せられる事とに對しての憧憬を以て滿されて居るものである。お嘶殊に仙人嘶 Fairy に於て見出さるゝ所の親切、同情、誤解、誘惑及不幸なる習慣に對する苦しみ、豪傑的冒險及び偉大なる克己等は自分自身の未熟なる企を自分の世界に適用すべき暗示を與へるものである。恰も大きな小説が大人に人間精神の世界的歴史を描かしむると同様に良く工夫せられたるお嘶は子供に對して其の歴史の始めを描かしむるものである。大人にとつては鈍い想像に過ぎない様な事柄でも小さい子供にして見れば生命と、活力と、眞理とを以て溢れて居るものである。何となれば是等のお嘶は子供等の經驗を暗示し時としては困難に打ち克つべき道を示し、のみならず他では全く求むる事の出来ない心の養分を其擴がりつゝある精神に供給するからである。之幼稚園に於けるお嘶の用の第一理由を貢獻するものである。

お嘶の實際上の價值

小さい子供に對してお嘶が價值のあるものなる事を實際的にもつと闡明にして欲しい人々の爲に私は、お嘶は子供等にとつては文字の始めであるといふ事を附け加へ度い。何となればお嘶は適當に選擇すれば子供に其の第一の趣味を與へ、且いつかは本を讀む様に導く所の、善良なる文學に對しての食欲を増すものであつて人は之が無ければ遂に唯不耗の存在に導かれるものであるが、讀書に由つて初めて其の心を友無き孤獨の寂寞から免かれしめるものである。夢と本とは共に一つの世界である。

人は知る、本は眞實の世界なることを

而も純にして善良なる。

之を強き莖にて卷く時は

吾々の慰めと幸福とは、

恰も新なる血の如くに湧かん。

(Words for this for anal Talk)

お嘶に由つて子供等は偶然的に其の語彙を擴大して其發表の資本を増すものである。尙又お嘶が子供を善に導き、價值多き理想へ刺戟する直接の手段となる事は決して稀な

事では無い。殊に仙人譚は善良なる行を養ふ上に役に立つものであつて、其譚の背景法に由る貪欲、不正直、慘怛、粗暴の如きは全く其の反對の美しき寛大、正直、親切及禮義等の美點を説明して、是等の美德を明かにし且極簡單に之を示すものである。

材料の選擇に於ける二つの誤

お噺の選擇をするに方つて、保姆は其の材料の非常に豊富なる事を知る。古典的の噺、神話、傳説、仙人譚等の誘惑の外に善惡種々なる現代的の澤山のお噺が其の選擇を待つて居る。此の豊富なる材料を持つて保姆は其の選擇上に二つの危険の潜伏せる事を知らねばならぬ。其の一つは善きお噺が澤山ある爲に細目に載せ過ぎる事であつて、餘り澤山のお譚を提供し過ぎる爲に子供は精神的不消化を來す様な結果に至ることである。其の二は幼稚園時代の子供の諒解以上の程度のお噺を提供せんとする傾向に陥り易い事である。十歳乃至十二歳位の子供の同化力を此の時代の子供に負はせんとするのである。お噺が美しくして自分の嗜好

に合致する爲に其に釣り込まれて、其のお噺をせねばならぬとするのである。若し之に劇的の氣分を加味して話すならば子供の注意を惹き之を緊張せしめる爲に、子供には單に噺の外殻しか解つて居ないので、其の意味が充分子供に徹底したものとして得意になるのである。併し乍ら實際其のお噺の美と眞理とは子供等の誤解以上のものなのである。かくして保姆は二つの目的を破つたものである。其の一は自分自身の努力、其の二は他の先生の努力に對してである。他の先生といふのは後に小學校の幼學年に這入つて既に其の諒解力が出來、其の價値を充分に認める事が出来る様になつて來た時、既に幼稚園に於て早過ぎた時代に聞かされて居て、其話の艶が消え失せて居るのに更に之を提供しやうとする場合である。幼稚園時代に認められた以上に其の發達が、より熟したる要求と諒解とに適應して居ると判斷して、右の如き子供の居る組に一のお噺を提供すると、其の先生が此の組から受ける所の憎らしき挨拶はいつも「其のお噺はもう幼稚園で聞きました」である。

お噺の選擇に關しては保姆は鋭い眼識を用ひねばならぬ

子供の爲に書かれたお祈の大部分は、昔のも現代のも共に今日吾々が取扱つて居る未熟なる幼稚園の子供には不適當であると云ふ事を知らねばならぬ。例へば最もありふれたインツプ物語の中にも四歳乃至六歳の子供に諒解せらるゝものは僅かしか無いのである。神話や多くの傳説等も一般に同様である。勿論個人的の例外はある事ではあるが、上述の事は吾々の幼稚園に於ける子供の大多數に關しては眞理である。古典的の仙人譚は保姆にとつては效果ある研究の餘地のある部分である。アンデルセンの美しい仙人譚は殆んど除外例なく大きい子供の爲に書かれたのである。

“Little Bala and the Lane Giant,” “Prince Hapweda”の如きは念の入つた象徴を含んで居る所の子供を惹きつける話ではあるが、幼稚園の子供には其の展開があまり高尚すぎる。此の事は現に或る幼稚園に於て話されて居る事實もあるから、不必要の言ではないと思ふ。“Miss Richards’ the Golden wisdoms”の美しい例話は小さい子供にと云ふよりも寧ろ大人に適して居るものであつて二三の除外例の外は同様の事が言へる。又或る場合には、其の原形に於け

る一部を切り取つて幼稚園の子供に適當したものにすることが出来る。併しこれが良い方法であるかどうかは勿論疑問である。併しお祈の中でも非常に勝れたもの、完全に作られたものなどは決して切斷してはいけない。こんな種類のお祈は子供等がもつと後になれば好んで聞きもし又能く其の全體を味ふ事が出来るものであるのに、多くの保姆は何故之を考へないのだらう？長い經驗のある保姆は屹度始にはこんな種類のお祈を澤山に提供したものである。保姆にとつては面白くもあり又好きであつたに違いない。子供等が黙つて聞いて居るから、屹度其の語の眞理と美點とが子供等に解つたのだと思つて居た。處がいつか子供の心理状態から考へて、今まで子供が諒解したと思つて居た事は間違であつて、子供の心としては不可能だといふ事に氣が付いて、それならば何故子供等は黙つて聞いて居たらう？と考へて來るのである。子供等はあのお祈を聞いてほんとに満足したのだらうか？そうとすれば、そんな未熟な智能に應ずる様に誤つて聞いたのだらうか？或は“The Awaken ing of Helena Ritchie”に於けるダロウの如くに、先生

の顎が何度動いたかを研究する事に誘惑されて居たのだらうか？

かくの如く子供等の爲に書かれたおにの大多數は幼稚園に於ける子供よりはもつと大きい子供の爲に書かれたものであるのだけでも、選擇をすべき充分に大なる餘地が存してあるのであるから失望するの要はない。子供の心に重荷を負はせ過ぎてはいけなと言ふ事を記憶して置く必要がある。好いお話は反復に堪へるものであつて其のお話に對する子供の好愛は、これに親しむ程強くなるものである。變化を要求する所の止み難ない望みの爲に心がためらつて來る様な事を子供の心に起させる心配はない。却つてあんまり澤山なお話を提供すればさういふ結果になる。

よきお話の重なる特徴

重に何んな特徴を持つたお話が幼稚園時代に適するものであるかと言ふ事を考へるのは無益では無い。是れに由つてお話の選擇を都合よくする手引となり得るのである。

幼稚園の子供は原始的の要求、原始的の感動、原始的の

發表に關するお話を要求するものだといふ事は、間違ない事と思ふ。是は子供自身の生活と一致するからである。子供は込み入つた脚色をつかまへる事は出來ないのであるし乃至は又近頃の仙人噺のあるものが要求して居るが如き微妙なる分解をも同様之を捉へる事が出來ないのである。

子供の要求に過するお話は直接子供の想像に觸れたものであつて、其の反應の即時的のものでなければならぬ。子供は其結果に到達するのに廻り遠い路を取る事には興味を持たない。又動作に豊富であつて其の發表は簡單で且つ言葉がはつきりして居る事が必要である。又反復する事及び直接説話は必ず必要だといふ迄では無いにしても、小さい子供に聞かせるお話の理想としての特徴とする事が出来る。昔噺として有名な「三匹の熊」「三匹の小さい豚」及び「小さい赤い牡雞」のお話は幼稚園時代の子供に聞かせる完全なお話として總ての必要な要素、即ち活動、脚色の單純、簡單、言葉の明瞭、反復及び直接の説話等を最も有効に組合せたるものである。右のお話は古典のお伽噺であつて、小さい子供に即刻の訴をなす爲に其の生命は永久的

のものである。此の癖を書いた人は小さい子供をよく了解して居つたに違いない。

グリム兄弟の蒐めた仙人^{フェアリーテイル}癖の中の僅かとイギリスのフェアリーテイルスの幾分かとは殆んど理想的に極小さい子供に適つたお癖である。子供の行爲を述べた單純なる勇敢なお癖及び殊に動物の勇ましい行を述べたお癖は子供に歓迎せられるものである。

滑稽なお癖も、特に滑稽が分明で單刀直入な場合には子供の感興に訴へるものであるけれども、其の滑稽の性質が巧妙に出来上つて居る場合には全然平面的に陥つて仕舞ふ。

滑稽の感じといふものが人生に於て重要な部分をなして居る事を認めるならば時々眞に滑稽なお癖を提供する價値を承認する事が出来る事と思ふ。滑稽の感じは吾人大人にとつては實に安全辨であつて、心からの笑は全く好い事である。

之に反して歴史のお癖は幼稚園時代の子供には殆んど適しないといつてもいい。概してこの時代の子供は長い時間の期間を諒解する事が出来ないもので、お癖で歴史の事實

を子供に知らせ様とする事は時間と折角の材料とを浪費するものと云つて好い。自然界の或る事實を知らせる爲に自然界のお癖をする場合には類似治療薬としてしななければならぬ。自然界の知識を幼い子供に得させるには自然に接觸させる事が特策である。けれ共子供の知識の範囲内で自然界の事實を説明する事が出来て而も安全使ふ事の出来るお癖も少しはないでもないし、又動物生活のお癖で愉快に取扱ふ事が出来て、子供にも充分面白くて利益も少くないものも相當にあるのである。或る指定された様式で何か必要な事項を授け様とする丈の目的で道徳的のお話をするなど言ふ事は、幼稚園では殆んど其餘地が無いと言つても好い。吾々が使用するお癖はすべて道徳的價値を持つて居ると云つて好いものであつて、其のお癖に由つて其の多くは小さい子供の心に植付けらるゝ所の眞理的な、古風な、むしろ子供の反感を買ふ様な道徳的なお癖よりもいくら有效であるか知れない。

お癖の説話

幼稚園ではお祈は讀むことよりも話すことが習慣になつて居るのであつて、こんな小さい子供を取扱ふ上には、稀な例外の外はこの方法に據るのが好いと思ふ。元來お祈は親しみのものであるから、之を子供に傳へるのに、讀むといふ媒によるよりも話すといふ媒に依つて一層親密に子供に接する事が出来るのである。保姆は話すことに由つて自分の組の子供の直接の求に應じ、且つ之を一層劇的にそして實際らしくする事が出来、かくして子供等の興味と注意とをよりよく保つて行く事が出来るのである。又お祈は親しみのものであるから、之を話すのには保姆の周圍に子供を呼び集め、そして集つて來たその小さい團體に親しく話してやらなければならぬ。廣場に全體の子供を座らせてお祈を聞かぜやうなど云ふことは大きな間違で、こんな場合全體の子供の注意を惹きつけておく事は極めて稀な場合の外は出来ない事であつて、この方法をとつて居る保姆を見ると誠に氣の毒に思ふのである。遠く後の方に居る子供に對して、澤山な聴衆を横ぎつてお祈を投げんと力め、更に一番前に居る子供の注意を保持せんとし、同時に未だお

祈の美を描へる丈に十分に年をとつて居ない子供の興味を惹きつけやうとあせつて居る有様は、見て居るものにとつては實に痛ましい限りである。どの幼稚園でも子供は其の年齢に於て、又其の發達の過程に於て決して一樣で無いのであるから、お祈にしても、恩物の遊びにしても、乃至は又作業にしてもこれ等の子供の總てのものゝ要求に應ずる只一つの事を授けやうとする事は不合理である。仕事は子供等に適應させられなければならぬのだから、お祈も色々な子供の要求と興味とに適應させる見界で選擇しなければならぬ。この要件を達する爲めには、先づ子供を其の能力に應じて二三乃至それ以上の小さい團體に區分して、是等の團體の各の要求に應ずる様なお祈を供給するの外は無い。この方法に據る時はお祈に對しての子供の歡喜と利益とを増すのみでなく、保姆自身も亦之に依つて其の喜びと慰みとを一層大きくする事が出来るものである。かうなればお祈を話す事は保姆にとつては一つの樂しみとならねばならぬわけであるが、元來親しみのものであるべきお祈が、幼稚園の時間割の一つであるといふ爲に、義務的に行ひ形式

に流れるといふ様な事になると其の楽しみといふ事も全く止んで了ふのである。

故に同じ日に異つた團體に話すお哢は違つて居なければならぬといふ事になるわけであつて、唯一つのお哢を選択しておいて之をどの組へも強いる事はよく無い事で、或る町での一つのお哢を同じ日にどの幼稚園にも話すといふ習慣と同じわけでむしろ有害である。私は其の町でのこの習慣の實際を目撃して、聞かされる子供も可愛想であるが、こんな非教育的方法を強いられる保母にも尠からず同情した事である。ホレースマン幼稚園の如き園児には如何に歓迎せられる様なお話でも、之を非常に窮乏な苦しい生活をして居る西部地方(北米西海岸地方)の外園の子供に聞かせては、却つて其の効果は無いのみならず、注意を亂し、その集中力を破壊する手段となつてしまふのである。これは境遇の悪い子供だから其の靈を養ひ想像を刺戟する様なお哢は取り去られてしまつて居るといふのでは無いので、そういふ子供の要求にもつと添ふ様なお哢を聞かせねばならぬといふのである。言ひ換へれば、自分等の日々の生活にあ

てはめて見てよく諒解の出来るお哢を聞かせよといふのであつて、お哢の内容が子供を見當もつかぬ未知の領域に導く様な、しかも刺戟を與へられるとか復活されるとかいふ事は思ひもよらぬ事で、むしろ途方にくらされるといふ様なものではないかといふ事である。

お哢を活す事は一つの技術であつて、天資の技巧を持つて居ないものは、不撓不屈の努力に由つて始めて達する事が出来るものである。保母はお哢を話す技術者でなければならぬのであつて、假令立派な技術者となれ無いまでも、技術者たらんと努力する事は決して無理な要求では無いと思ふ。説話の技術は元來個人的のものであるから之に上達するには定まつた確實な方則がある譯では無い。併し乍ら經驗の無い保母を技術的に上達させるべき二三の簡單な暗示はある。

準備に関する暗示

お哢の選擇が來たならば先づ第一に其のお哢の全體のスタイルと姿とを捕捉する心持で讀んで見なければならぬ。

次には、其のお嘶の勝れた點と特殊の氣分とを完全に吞込む爲に各人に必要な文繰り返し讀む事である。よく其の語句を一々暗誦する人があるがこれはよくない。お嘶は話すものであつて暗誦では無いのだから、上手に話さんとするには之程致命傷を與へるものはない。お嘶を覺える人は自ら危險に陥るものであつて、それが爲にお嘶を忘れるといふ一大不幸を來す危險に自分を置くわけである。話を始めるとよく子供は何とか、かとか話しかけるものであるが、こんな風に急に話しかけられたり、又は思ひもかけぬ訪問者に不意に室に遣入られたりした場合に折角の話の謀をくたかれたりする危險にも陥つたりしなければならぬのである。けれどもお嘶の中に出て來る詩文は一々記憶しておかなければならない。それから又何度も何度も繰り返される句があればこれも亦必ず逐語的に覺えておかなければならない。けれどもお嘶全體としては、それが全く自分のものになつてしまつた、恰も全く不用意に泉から湧き出て來る様でなければならぬ。お嘶を上手にするには何も外に方法も捷徑も無いのである。暗記したお嘶は決して其使命を

果す事は出來ないで、唯機械的形式的なものになり終るの外は無いのである。

お嘶を自分のものとして仕舞ふためには、其のお嘶の筋を吞込んだ後本を伏せて一人で思ひ切つて聲を出して話して見、更に都合が好ければ二三の子供を聴衆として大膽に話して見なければならぬ。若し又身振の必要があれば少しも恐れる事無くする事である「自分を劇中のものとなります事は必要な事ではあるが、それが爲にあまり芝居じみる事は避けなければならぬ。要するに、お嘶をする時には外の仕事の準備をすると同じ様な注意を以てかゝらなければならぬ。それからいよゝゝ子供を集めて話す段になつては、フレブルの格言「さあ私は子供と一緒に生活しませう」を胸にもつて、充分の自覺を以て當らなければならぬ。さすれば、話の際中に校長が這入つて來やうが、學務委員が這入つて來やうか、乃至は又無關係な他の子供が這入つて來やうが更にお嘶を挫かれる様な事は無いのである。お嘶と自分とは全く一つであつて少しも恐るべきものは無いのである。かゝる幸福な状態は決して唯一度の努力位で

得らるべきものでなくして其の理想に對して努力する事を續けて行く間にいつか到達せらるべきもの々ある。

お噺の説話に因んで善い言葉を使ふ事の必要である事を忘れてはならない。不注意な発表や拙い發表振に陥る習慣を避ける事には不斷に注意を怠らぬ様にせねばならぬ。子供は模倣者であつて、實に信すべからざる熱心を以て話手の發表や語調や又は其發音振をさへも捕へるものである。よき文章を讀む事は正しは言葉の使用の最もよい助けとなると同時に又文字の價値の鑑賞を得るに最もよい手段である。よい言葉の使用と明瞭な發音との兩者は共に習慣が其の大なる要素をなすものである。故に保姆はかゝる良習慣をつける事に努力せねばならぬ。

ミス・ノラ・スミスは話方に關する適切な秘訣を擧げて居る。即ち第一、純なる文學的趣味、第二、身振及例證、第三、劇的氣分、第四、容易い言語と明瞭な發表、及之に加ふるに氣轉と同情の閃とを以てすることこれである。

氣轉即ち會話して居る子供等の特殊の要求を感知して噺を之に合せて行く様に自分を子供に適應させて行く才能は

説話を成巧させて行く上の第一義的の要求であつて、天性の話し手は慥かにこの天資を持つて居るものである。子供の生活及子供の仕振に對す 同情、噺の精神及内容に對する同情の兩方は共に根本的のものであつて、上手な話し手は皆之を具備して居る所である。自分で面白いとも思はないし好きでも無い噺を話さうとすることは間違であつて、自分でしたく無い話に生命を與へる事は不可能の事である。この事は幼稚園ではよく強制的に話す様に強ひられる場合の度々ある例で、説話術の發達上の致命傷である。

仙女フェアリース人噺フェアリースを選択する場合、其の噺の思想や美點を子供に

感ぜしめる事の出来ない所があると思ふ時には、子供の興味や理解の程度に適應する様に多少の改正を加へる必要のある事がある。例へば、蛙の王様のお噺の場合、普通幸福なる結婚で終る事になつて居るけれど、子供に聞かせるものとしては寧ろ、子供が両親及家庭へ歸つて來る幸福で結んだ方が好いと思ふ。幼稚園時代の子供にとつては結婚などいふ事は少しも興味を起さないけれども、別れる事や歸つて來る事は子供の生活上の生きた經驗である。この理由

を以て「シンデレラ」の如きものは少し後の時代まで話さないで残して置く方が好い。意地悪い憎むべき傾向の存在として摸寫されたる繼母や繼父の傳統的觀念に對して反對する人には同意するものである。この關係はお晰の含んで居る眞理に對しては本質的のものでは無い。どんな年寄でも之には同意する事と思ふ。保姆がよく判斷し、氣轉をきかし、同情を持つ事はお晰を適應させる事にあるのである。

リズムのある詩を読む事

幼稚園に於けるお晰の使用に因んで、時々子供等にリズムに富んだ詩を読んで聞かせる事の價値に就て云ふ事は餘

計な事ではあるまい。この種類の詩は澤山は聞かせないで

且つ度々繰り返してやる事が必要である。詩のリズムとは、子供がリズムの音を好むのに一致し且つこんな詩を読んで聞かせる事は子供に本の中にはこんな面白い事があるのだといふ暗示にもなるのである。ユウゼン、フィールドの『The Rook-a-by Lady』の如き詩は子供魅するものである。

又ルーシー・ラーカムの有名な『The Brown Thrush』の如き簡単な詩を聞かせてやると、其の詩のリズム、内容の両方共が子供の心に感動を與へる所の手ごたへを認める事が出来る。Mr. Clement Q. Moore の『a Visit From St. Nicholas』も亦子供を喜ばせる詩の一である。

小 話

あ ち ば

○
マーガレットとスキートビーが陸子さんのお見舞に行き

ました。丁度其時陸子さんはリンゴの様に赤い頬をしてスヤ／＼と眠てお出でましたから二人を伴れて来た美いちや

んは睦子さんの母様にマガレットとスキートビーを渡して。

『ではお大事に。おばさまさようなら』

と云てそうと戸をしめて歸てしまひました。後にのこつたマガレットとスキートビーも出来る丈だまつて静かにしてゐました。

お母様は時々氷の一杯は入た袋を睦子さんのお額にのせたり枕に代へたりなさいました。

やがて夜になつて、あかりがつきました。

睦子さんが目をさました時よく見えるようにと云て母様が二人の花をあかりの側の處へお置きになりました。其内夜中になつたので待ちくたびれて二つのお花がお話をはじめました。

スキートビー『睦子さんはお寢坊ですね。いつおきるんでせう』

マガレット『ほんとうにさうね。それはさうと睦子さんが目がさめたら何て云ひませう?』

スキートビー『あら、さつき来る道で美いちやんから云ひつかつた事を云ひませうよ』

マガレット『さう、さう、ぢやあなたが初に云ふのよ』
スキートビー『あらあなたが先に云ふのよ』

と云てゐる中に花のお話が耳には入たと見えて睦子さんは目をさました。

仲よしの様にお顔をならべてゐる二つのお花を見て睦子さんは少し嬉しさうなお顔をしました。

スキートビー『さあ云ふのよマガレットさん』

マガレット『あら、あなたが先に云ふのよ』

とまた二人でこんな事を云てゐる間に睦子さんはいつか又眠てしまひました。

二つのお花はおやゝと困た顔をしました。

けれど其内ぢきに夜があけたので今度は睦子さんも先の様になくは眠りませんでした。

『母様今朝は頭が痛くない事よ』

と朝になつた時睦子さんは嬉しさうに云ひました。お母様は睦子さんの額をさはつたりお熱を計たりして氷の袋をはづしておしまひになりました。それからお顔を拭いたりお薬をのませたり種んな御用をなさつてからあつちのお室の

方に行ておしまひになりました。

マガレットとスキートビーは『ぢや今度は一處に云ひませうね』とお約束がきまつたので一二三で

二つの花『睦子さん御病氣いかゞですか。美ちやんがよろしく』と云ひました。

其聲が小さい〜可愛い聲でしたので睦子さんは大變よろこびました。そして

睦子『ありがたう。あなた達の聲はするぶん小さいけど可愛い〜こと。もつとお話をして頂戴な』

と云ひました。マガレットもスキートビーも可愛い〜聲をたてて笑ひました。そんなにお氣に入たら二人で歌をうたつてあげませう。そして香ひの子供に踊つてもらひませう、と云てスキートビーがつゝんでゐた花瓣を開いたら南京玉を風船にしたような小さい圓い身體の子供達が五人ほど飛び出しておもしろいダンスをしました。二つの花は可愛い〜聲で

フワ〜と香ひの子
かるい身體を上や下

さあ踊りましょう。たひひましょ。

踊のうた、れ夢のうた

花のお國の夢のうた。

とうたひました。其内隣のお室に足音がしましたら香ひの子達は急いで花の中には入てしまひました。お母様はからかみをあけて睦子さんに温い牛乳を持って来て下さいました。それから睦子さんの御病氣はだん〜よくなりました。そして睦子さんがお床の上に起きられる様になるまで毎日靜かな時になるとマガレットとスキートビーは可愛い聲でうたをうたつて香の子を踊らせては睦子さんをよろこばせました。(をはり)

ある雨の降つた日に、三郎さんはお母様と混み合た電車に乗りました。窓のガラスが曇つてゐたので三郎さんは、お手々で大きな目を二つ、三角のお鼻と圓いお口を拵らへて顔を畫きました。出来た〜、小さい手をた〜いて喜んでゐると母様が『さあ三郎ちゃんおるんですよ母さんに

おつかまりなさい」とお仰いました。三郎ちゃん、しかたなしに窓のお顔をちつと見て上手に敬禮しゅっけいをして降りて行きました。

其中電車は、いくつも〜停留場を過ぎて終點に來ました、そして人がみんな下りてしまふと、わきの方の車庫の中へゴーツとは入つて行きました。

やがて車掌も運轉手も下りてしまひました。すると三郎さんが顔を畫いて置いた窓が、しゃべり出しました。

『イヤ、廣いなあ車庫の中は、あんなに溢杯電車がならんでゐる、うれしいなア、さつきの坊ちゃんに僕にこんな大きな眼玉を畫いてくれたから僕は何でも見る事が出来るイヤアどうも愉快々々』

すると之を聞いた隣のガラス窓が、

『羨しいなア君は、立派な眼の玉を畫いてもらつて何でも見えるなんて、僕にも誰か早く顔を畫いてくれるといふ君々、そんなによく見えるなら少し僕に話して聞かせ給へ。大變靜かになつたが一體、君こゝは何處だね』

『此處は君、車庫だから今は誰も乗ては來ないのだが、た

くさんな電車が此處では皆からつぽで休んでゐる。あつちの方には赤い字で書いた故障車もゐる、すねぶん廣いよ車庫の中は、ね君、さつき三郎君が僕に眼を畫いてくれた時にね僕面白いものを見たよ、それはね、大きくなく風呂敷包を背負た小僧さんがコクリコクリ居ねむりして寝てしまつたのさ、そして隣の人に依りかゝりはじめると、隣のおばあさんが困てね、オイ〜小僧さん、しつかりしないと乗りこすよつて起していたつけ』

と話をしてゐるうちに靴の音がして車掌と運轉手が入て來ました。

發車々々といふ聲がすると、いつか車はグーツと動きはじめました。『オヤまた出かけるようだ、こんだ又三郎さんが乗て僕にも顔を畫いてくれるといいな』と隣の窓ガラスは思ひました。其の内どや〜と人の足音がしました。

『君、どんな人が乗て來たの』隣のガラスが聞くと、

『おや今度のは腰のまがつたお婆さんだ』どつこいしよつて腰をかけた、向側にはひげの生えた小父さんが新聞を読むところだ、それから、袴をはいたお姉さんが二人、きつ

と學校に行くに違ひない、其の次はおやく、お母様におんぶした小さい坊ちゃんだ、三郎さんに似てゐるけど少し小さい、あつ、僕達の處へ来た〜』

『うれしいな、今度は僕が書いてもらはう』

と隣の窓ガラスが喜んでゐますと、其の坊ちゃんはお口もきけない位まだ小さいので顔を畫くどこではありません。

三郎さんが畫いておいた窓の顔をぞつと見てゐましたが、何かいやな物でも見た様子で、やがて小さい手を振り上げて「め、め、め」と言ひながら、顔の處をめちやくちやに擦りはじめました。

『困たなあ、困たなあ』とガラスは小さい聲で言ひました。

『君、どうしたのさ、どうしたのさ』と隣の窓が聞きました。

『どうしたのつて、此の小さい坊ちゃんは僕の顔をめちやくちやにするんだもの、もう目がつぶされたから、どつとも見えやしない、つまらないア』

と言てゐるとまたさいお手ゝで少し残てゐる、お口の處まで、めちやく〜に消してしまひましたので、お窓は、と

う〜お話する事も出来なくなりました。(終)

三吉は毎日〜工場へ通て、小父さんや兄さん達と一處にトンカチ〜とお仕事をして働いてゐまして。

或日お晝の御飯がすんでお休みの時に、三吉は工場の裏へまわつて上の方をながめて居りました。其邊は工場が澤山あるので黒いのやあかいのや背の高い煙突がニョキ〜といくつも立ち竝んでゐました、丁度其の中の一つの煙突は悪い處があつて煙を出してゐませんでした。

『やあ高いな〜。煙突掃除をする小父さんはいいなア、時々あんな高い處へ登て行くんだもの。オヤオヤ此處に階子がついてゐる僕もひとつ登てみよう、』

とスル〜と上で行きました。三吉はもう十歳になつてゐるし木登りは上手だし、見てゐるうちに一番上の處へ行てしまひました。すると直ぐそばにねずみ色をした雲が來ました。『やアこれは丁度いい、一寸僕のをせておくれ』三吉は身軽く雲にとび乗りました。すると後から〜もく

「と綿の様な雪が湧いて來ます。』面白いなア、雪のようだけど冷たくもないし」と言ひながら其上をどん／＼踏んで歩いて行きました。と向の方を見ますと、まあ雲の上の廣いことひろいこと、あつちこつちに白いのや紫や薄紅や眞黒やいろ／＼の雲のおふとんがならんでゐます、そして其の中に雷さまも眠てゐるし雨の小父さんも夢を見てゐるし風の神さまはぬむりをしておました。

「やあ、おもしろいなア、でも折角みんな眠てゐるんだからおこさないようにしてそうつと、一寸雨の小父さんの如露をかしてもらはふ」と持てみるとなかなか重いのを三吉は力いっぱい持ち上げ下の方へ向けて水をまきました、下の方では大變、急に雨が降て來たので皆かけ出すやら傘をさすやら大さわぎです、それをみてゐた三吉なほ／＼面白くなつて、あつちへまいたりこつちへまいたりしきりに雨を降らせてゐましたがもう手が痛くてたまらなくなりましたので如露をそうと片づけて、今度は雷様の電氣仕掛けの太鼓をかついで來てならしました。これは重くもなし手も痛くないので喜んでゴロ／＼とまた方々ならして廻りま

した。誰か目を覺ますかと思て止さうとしましたが雲の中ではみんなよく眠てゐます、で三吉は安心して又あちこちとかけまはりました。其中あんまり歩いたので足が痛くなりましたから太鼓もそつと元の所へかたづけておきました。とみるとさつきまで居眠りをしてゐた風の神さまが高いびきで其の後の大きくふくらんだ袋が何だかさはつて見たい様に思ひましたので、靜かに持て來て、さうつと口を解いてみました。

ヒュー／＼／＼急に風が出ましたので、下ではまた大さわぎ、帽子が飛ぶやら干物がおちるやら、塵埃が起つやりました。たくさんの人が、あんまり皆困るらしいので、「これはいけない」と思て袋の口をしめようとしましたが、どうした事かちつとも閉りません、急いで閉めようとすればするほど風はだん／＼強くなるし、どうしたらいいかと三吉も困りきつてしまひました。けれど痢口な三吉は何か思ひついたらしく袋の口を其ままにして置いて一生懸命かけ出しました、そして雲よりはずつと離れた處に居るお日様のとこへかけ付けました。

『お日様〜、風の神様が眠てゐる間僕が一寸袋をかりて風を出してみたら口が閉まらなくなつてしまひました、どうしたらいいでせう、お願ひですからをしへて下さい』と言ひました。

お日様はニコ〜しながら『オヤ〜、三吉、おいたをしたね。あの袋は風の神様の外はだあれも閉める事は出来ないんだよ、眠てゐる處を氣の毒だけど風の神様を起して閉めておいただきなさい、よく靜かに起してわけを話してたのむんですよ、風の神様が寢ぼけると恐いんだからね』とおつしやいました。三吉は『わかりましたお日様ありがたうございます』とおじぎをして急いで風の神のそばへ歸て來ました。そして靜かに呼びました。

『小父さん〜、すみませんが一寸起きて下さいな。小父さんの眠てゐる間一寸袋をかりて口を開けてみたらどうしても閉める事が出來なくなつてしまひました。お願ひだから小父さん閉めて下さい』と言ひました。風の神は大きなおびと、あくびをして

『やれ〜いたづら小僧だな、まよ〜今閉めて來よう』

と直ぐに承知をしましたので三吉も大安心を致しました。

かうして下では雨が降るやら、大風が吹くやら大さわぎをしてゐる間に上の方では大勢のお星様やお月様はい〜氣持ちさうに眠てゐます。三吉は此の雲の上のふしぎに靜かな景色を驚いて見てゐますと、いつの間にかお日様がだん〜速くなつて行きます。

『お日様、お日様、あなたはどこへ行くのですか』と追ひかけて行きますと、お日様は

『もうち夜が來るからわしは外の遠い國へ行くのだ』とおつしやいました。

『おや〜、お日様は夜が來ても眠らないのですか、そんな遠くへ行って、それで又明日の朝は歸てくるのですか』と驚いて三吉が聞きますとお日様は、

『さうさ、わしは一年中眠たことはない、こうして方々歩いてゐるのだ、人間のように立ち止てゐるなんていふ事はないのだ』と言てゐる間にもお日様はずん〜遠くへ行きます、すると雲の上も今までの様に明くなく、何だか淋しくなつて來たので三吉は急にお家の事を思ひ出しました。

歸らちと思てみるとあんまり方々かけまわつたので上つて来た煙突がどこだかわからなくなつてしまひました。

泣きさうになるのをやつと堪へて三吉はさつきの風の神の處まで來ました。そして

『小父さん、僕お家へ歸る道がわからなくなつたんですが後生ですからをしへて下さい』とたのみました。風の神は『やあ、いたづら小僧、とう／＼弱つたな、よしよし小父さんが歸らしてやらう。雲の中で一番低く行かれるものは

雨雲だ、そらあのねづみ色をしてゐるんだ、今小父さんがあれを呼んであげるから、お家まで送ておもらひ』と言てピーと口笛を吹きますと向の方からねづみ色の雲がかたまつて來ました。

三吉は大喜びで『小父さん、どうも有難う、さようなら』と言て元氣よく雨雲に乗り、自分のお家の屋根まで送てもらつて歸りました。(をはり)

泰西名家幼稚園觀

記 者 譯

— Charles W. Elliot.

幼稚園の基礎的觀念は、即ち學校の總ての階段に於て必要なものと同じものである。

幼稚園に於ける最上の方針及實際は、子供が何か爲る事に依て物を學ぶ事と、彼等が學びつゝあると同時に楽しんで居るといふ事である。そしてそれが爲彼等は興味を持ち同時によりよく學ぶ事が出来るのは幸福である。

舊い見界では、學校に於ては、子供に嫌はれ、苦痛とせられ、望ましくないと思はれる過程でなければ、其以外には眞の、或は價值ある教訓は無いとせられてゐる。教育に於ける此の恐ろしい過誤に對して幼稚園は充分満足ある成巧を來し

た。

長いあいだ、規則立た教育は、若し其れが免れ得ぬものとするならば、それは人生の自然的な快樂に干涉する處の防害、反抗さるべき敵對制度、忍耐を要する苦難であると、青年に依て考へられてゐる。

幼稚園は此の青年の心の中の毒に對して、よい解毒藥を持ち來したのである。

幼稚園の主旨「爲る事の喜び」は、すべての教育の主旨、主張であるべく、又人生のどの場面にも獎勵をあたへる幸福な主旨である。

—Kale Douglas Mingin.

人生及び教育の理論に於て幼稚園の學習及實際は（私が非常に若年であつた頃に）私に、生活すべきそして其に依て働かざるべきある理想を興へた。そして其理想は決して消えず衰へもしなかつた。

富める時にも貧しき時にも不遇の時にも幸福の時にも病氣の時にも健康の時にも、善い時にも悪い時にも、かの少年時代の、牧場や小川、林や地上、あらゆる、あたりまへの事物の「天國の光」のような其のきらめきは、決して完全に失はれず又困難な境遇の時でさへも、夢想の榮光とある活氣を生ぜしむる、考と思ひとをよく保てゐた。

—Hamilton Wright Mabie

幼稚園は其校舎の壁四方の中にとどこもる事は出来ない。更に歩を進めて兒童の背後へ、その母親の許へまで行き、校

舎の中と同じ理想を其の家庭にまでも及ぼさなければならぬ。而して眞の幼稚園教育者の心は、幼稚園の室で幼児と對してゐる時でも、なほその兒の父母といふ事も念頭においてゐる。眞の幼稚園教育者は、教室の背後には家庭のある事を、そして一人の兒童をさとする時には其兒の母の教育を忘れてはいけない。ことに裏長屋にある幼稚園は單に表面上の教育に止まらず實に文化の源となるべきである。上品な生活に於ける最初の課業は、兒童を教育する事のみではなく、其區域一般に亘て、種々の場合に事よせて幼稚園の感化を、其の社會全體に及ぼさなければならぬ。

—Lyman Abbott.

幼稚園は、小兒の庭であり家庭と學校は上である。

わるい習慣は雜草であつて父母と教師は園丁である。

教育は下ごしらへをし土を肥し種を蒔きそして苗床の雜草を取る。幼稚園の遊戲や歌は園藝用具である。たのしい氣持おもしろい氣持、親切な心、同情等はなくてはならない日光のかゞやきであり、悲しび、試み、鍛練、涙、そして守らなければならぬ規定、などはなくてはならぬ雨のうるほみである。

どの家庭もどの學校も、小兒の庭でなければならぬ。そして其の生徒達は決して卒業するといふ事はない。小學校高等小學校大學校、それらはみんな、少年青年の成長すべき小兒の庭であつて、彼等が最も自分にふさはしい花をひらき實を結ぶように、自然に單純にそして健康で育つようにと獎勵する。

—Frank Menurry.

幼稚園は、最近三十年間にわたつておどろくほど莫大な良い感化を小學校へ及ぼした。

其の間小學校は、靜かに幼稚園の立場の方へと變化して來た。幼稚園にはある大きな缺點があるにもかゝらず、大體兒童の個人性、主旨の發展、豊富な身體的活動に就て準備をして來た。小學校は、幼稚園の刺戟に依て、この種々な要素を益々接近せしめ、今では、幼稚園と小學校とは、多くの方法に於て容易しく區別する事の出來ない迄に成て來た。即ち二者は同じ根底の上に立て居る。私は之等凡ての過程に於て小學校が幼稚園に負ふ處、非常に大なるを思ふのである。

—Earl Barnes.

米國主義は全く教育の結果である。

一人／＼の人は、大洋の定期船で來たのだらうと、大島の背に乗て來たのだらうと何れにしても、その人が北米合衆國の良市民となるならば米國家化されなければならぬ。我々の公立學校は此の目的の下に建てはじめられたものである。學校組織のいづれの部分よりも、よく此の仕事を爲たのは幼稚園である。若し或人が良い幼稚園を熱心に一時間、見て居れば必ずそこには少さい市民を見出し、そしてその室内には民主的な群りを見出すに違ひない。

そして同じ分子が兒童成長の後に、世界の國民に、北米のオハヨー、アクロンの、良市民に、ならせる。

—James Rowland Angell.

米國に於ける幼稚園の歴史は、其指導者の教育上の聰明と博愛精神との大なる名與を示してゐる。

幼稚園は、其適應性と効果を與へんとして、米國兒童の特質と、公立學校の規定とに、順應さして來た。私は、幼稚園の持ち來した多くの實行と精神とを小學校に同化した、古い米國の企に、對して大なる尊敬を表するものである。

大正十三年を送る

大正十三年正月、それは新年といふよりむしろ「冬」といふ状態に於て迎へられた。あの曠漠とした枯葉色の野原梢ばかりの木立と常磐木の暗い緑に彩られた、音なく光ない、寂寥さながらの自然の冬、天災に遇た關東の地は勿論直接被害の無かつた他の方面でも諸種の關係から、人の心に或は事業に、或は其兩者共に誠に「冬」の有様であり、「冬」の氣持であつた。

然し小虫は冬眠から覺める、日本全國「冬」につつまれたのは暫くの間であつた。用意深い自然が、靜かな冬の憩ひの間に育む、新生の力、それは大正十三年の春が來らんとするに當つて、年々の春に一倍した力を以て緊張さを以て全國各地各方面の人の心に充ち溢れたのである。

「震災後」「震災後」といふ言葉は、よいにつけ悪いにつけ人々の間に言ひ代はされた。震災後の我が幼稚園界、被害の少ない各地の盛況と聲援を力に、關東被害地の、實に

K

H

みじめな我が幼稚園界は、兎にも解にも苦しい冬を耐へ通して、待ちに待つた復興の春へと起ち上つたのである。花をみる春ではなく蝶と遊ぶ四月ではなく、傷癒えて健康に復したものの更に一倍の力を込めて新生の春に一步を踏み出したのであつた。事業復興に寢食を忘れて活動する父母達のたゞ一つの憂は、愛兒の保護教育である。人々をして復興事業に専心ならしめんが爲に、復興の歩を速かならしめんが爲に新たに設けられた、公私合せて二十近くの托兒所また社會事業協會では臨時保母養成所を設けて保母の教養に市では營養食供給により療養所設置に依て衛生的養護に又産育院の新設に依て乳兒と母親を中心に社會的の保護に直接間接各方面の援助に依て燼失幼稚園もバラツクながら我が家に歸た、そして黒焦げの木から若やかな新緑がもえ焼木の梢に可憐な櫻の花がほゝゑむような奇跡におどろきながらも日々をいそしむ様になつた。

夏には大阪、奈良、福岡、東京の各地に於て諸種の講習が催され十月には、第四回全國保育者大會が岡山に開かれ、各方面の討議研究發表に充ちて大に盛會を極めた。なほこれに前後して、大阪、神戸、京都、名古屋、東京の各代表者は協力して保姆資格、幼稚園令の二問題に就いて活動せられつゝある事之亦本年の幼稚園界に特筆すべき事であらう。

……、淋しく迎へられた大正十三年。然し今、元氣を得て幾分でも肥へ、はれやかに明るくなつた其姿を送る事は私にとつて喜ばしい。殊にその後半期に入て起た運動、それは可成り古い長い間の問題であつたは其事成就の後我保育界に一進歩を來たすべきであつて、我等の一人く擧て聲援すべきである。

大正十三年！復興！！

復興への歩みは容易ではなかつた、然しあなたの復興への歩みは勇しかつた、努力に努力を重ねてだんだんに力強く生長して行つたのもしい姿。然し私達は、もうあなたを送らなければならぬ。喜びと感謝の涙ぐましい氣持で、靜

かな永遠のいこひへ。
さらば、大正十三年！。

病氣は轉換への準備である。だから病氣を怨む事は寒氣や雨を怨むのと同じ事だ。

病氣は利用すべきもので、決して怨むべきものではない。雨を悲しむ者は、ただ遊び暮してゐる者だけで、眞面目に生活してゐる者には、雨も喜ばれる。

病氣もさうだ。病氣のみではない、不快な氣分や、幻滅や、悲哀など——かういふものは皆現世からの離脱を接けて、新しい生活の轉換を容易にするものである。

——トルストイ日記より——

編輯だより

歳暮！ 成人にとつては、あはたしい、そして子供にとつては何もなく賑やかなざわめきに包まれたたのしい年の暮が来ました。年々歳々めづらしくもない事ながら、「正月待つ気分」やサンタクロースの笑顔」が小學校の教室には味ひ得なくとも、幼児の教室には存分に充たし得らるる幸福を感じます。

年の暮や新年の種々な催しには其他の特色が特に深いように感じられます、もし初春の筆のすざびを此の小さい「幼児の教育」の爲にお分ち下さいましたらどんなに幸福でございませう。

わが「幼児の教育」は本年四月、様々な困難をきりぬけて、やつとの事で起ち上りました、そしてともかくも此處まで歩いて來ました。が、願れば誠にたどくしい歩みでございます。

「より良く」とは常に類てみながら常に到達出來ないように思はれます。この上は是非とも各方面の諸先生方、姉妹方の御援助にまたねばなりません。

大正十三年を、手を取つて今日まで歩かせて下さつた諸先生方姉妹方に心からの感謝を捧げると同時に、やがて來る年の爲に更に御助力をお願申上ます。

御注意	廣告料	定價表		冊數	定價	郵稅
		一冊	六冊(前金)			
△(外國行郵税は「部十二錢の割にて御拂込下さい) △本誌購讀御希望の方は定價表により振替貯金で御送金下さい(東京四六壹壹番教文書院宛) △前金切れの節は帶紙に「前金切」と致します。 △郵券送金の節は一錢増で一錢切手に願ひます。 △本誌の一切は教文書院宛御照會下さい。	普通面一頁	金四拾五圓	同	同	同	同
	表紙裏付	金七拾圓	一頁以下御斷	同	同	同
	十二冊(前金)	金四圓貳拾錢	不	同	同	同
	六冊(前金)	金貳圓拾錢	不	同	同	同
	表紙前付	金四圓拾錢	不	同	同	同

大正十三年十二月十一日納本
大正十三年十二月十五日發行
第二十四卷第八號

無斷 轉載 禁止

編輯者 東京女子高等師範學校内日本幼稚園協會
倉橋惣三
發行者 東京市下谷區上根岸八十八番地
石上元新
印刷所 東京市京橋區木挽町二ノ一三
教文書院印刷部

發行所 東京上野公園寛永寺坂下(上根岸八十八)

電話下谷三〇四七番・一九五一番
振替東京四六一一一番